

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：地域・学校・子どもをつなぐ郷土の美術館の可能性 2 年次  
—小磯記念美術館からの発信—

事業者名：神戸市立小磯記念美術館

住所：神戸市東灘区向洋町中5丁目7

TEL：078-857-5880

FAX：078-857-3737

HPアドレス：<http://www.city.kobe.lg.jp/koisomuseum/>

連携事業者名：神戸市幼稚園・小中高等学校・特別支援学校、  
神戸大学、神戸ファッション美術館、神戸ゆかりの美術館

会場：神戸市立小磯記念美術館とその周辺

事業期間：平成22年5月1日～平成23年3月15日



## 1. 館の使命と本事業の関係

当館は小磯良平を中心とした作家・作品を通じた神戸の地域的な特性をよりいっそう魅力なものとして発信し、次世代へつながる文化の継承を使命としている。小磯良平の生き様から、神戸を愛する気持ちの醸成や育成に寄与していくものと考えられる。

そのために、神戸ならではの香りが漂う小磯作品や小磯の画業から郷土を愛する心を育て、美術を愛する態度を養うために、自他を認め、コミュニケーション力を育む「対話を通じた鑑賞」を基本に、【学校・子どもとつなぐ】【地域とつなぐ】をテーマに二つの実践を行う。

## 2. 企画内容

### ①事業目的

この事業は郷土の画家小磯良平作品を中心とした美術をさまざまなかたちで学校や地域に提供し、地域に根ざした人と人をつなぐ美術館としての可能性を探ろうとするものである。

【学校・子どもとつなぐ】では小磯良平の作品を「こいそさんカード」として教材化し、その実践事例集を神戸市の教員と協力して発行することで、学校で郷土の文化に対する意識の継続につなげる。【地域とつなぐ】では、六甲アイランドにある3美術館が連携し、街づくりのきっかけの場を提供する「RIC アートカップセル2010」を開催する。これは、神戸ゆかりの若手作家が「RIC で発見 RIC の発見」をテーマに美術を提案し、学校や地域の人と人、地域の企業と人との結びつきを深め、美術館が街の活性化を図る核となり得る可能性を探る。そして、神戸ならではの文化や美術を通して、自己を見つめ、他者と関わり、そこから新たな自己を発見できるような、郷土や美術を愛する人材を育てる地域の美術館をめざす。

### ②事業概要

#### ○学校・子ども・人とつなぐ

ア. 小磯作品を活用した鑑賞教材活用実践記録集と指導用カードの作成

イ. 特別展を深く味わうためのスペシャル美術講座の開催と子どものための鑑賞ガイドの作成。

A 展覧会内容に即したワークショップ型の美術講座の開催

B 展覧会をより楽しむための子どものための鑑賞ガイドの作成。

ウ. 先生のための鑑賞ナビゲーター養成研修

#### ○地域とつなぐ

エ. 美術を通して地域をつなぐ場の提供（5月～3月）

オ. 美術と地域をつなぐ記録集の編集と作成

### 3. 事業実績

#### (1) 事業の主な内容及び日程

##### ○学校・子ども・人をつなぐ

##### ア. 小磯作品を活用した鑑賞教材活用実践記録集と指導用カードの作成

①開発委員の教員と協力し「こいそさんカード」を活用した実践集と指導用カードを編集作成した。

【構成委員】神戸市教員（小中学校、特別支援学校）・神戸大学発達科学部教員と学生・美術館スタッフ

・発行後に実践報告会を開催し、実践を共有した。（1回）2月17日

●鑑賞教材補助資料 『こいそさんカード』指導用カード（A4判）

●鑑賞教材指導の手引き 『こいそさんカード』実践事例集

発行 平成22年9月30日

発行部数 2,000部

発送先 地域、学校への配布と紹介

神戸市・西宮市・芦屋市内の幼小中高等学校園、特別支援学校、美術館、大学関係機関などに見本を配布し、活用希望数を募り、配布した。また、校長会や教科の研究会、鑑賞研修会で配布した。

##### イ. 特別展を深く味わうためのスペシャル美術講座の開催と子どものための鑑賞ガイドの作成。

A. 展覧会内容に即したワークショップ型の美術講座の開催により、各技法を学び、表現方法の多様性を体験し、より美術への関心を高めた。

① 子どものためのスペシャル講座1

「水墨画に挑戦」8月7日（土）、14日（土）

② 子どものためのスペシャル講座2

「えのぐをつくろう」8月13日（金）

③ 大人のためのスペシャル講座

「掛軸をつくる」（8月21日（土）、28日（土）、9月4日（土）

B. 展覧会をより一層楽しむための子どものための鑑賞ガイド「岸田劉生がみつめた子どもたち」の作成。

発行 平成22年6月

発行部数 5,000部

##### ウ. 先生のための鑑賞ナビゲーター養成研修（10月17日）

・教員（神戸市小・中学校、特別支援学校）や神戸大学発達科学部の学生を対象に、鑑賞ナビゲーター養成として、「RICアートカプセル2010」でアートと人を結び、次世代へつなげる鑑賞教育を進める人材を育成した。

##### ○地域とつなぐ

##### エ. 美術を通して地域をつなぐ場の提供（8月・10月）

A. 「RICアートカプセル2010」で、神戸ゆかりの若手アーティストとのワークショップの提案により、地域の人々に美術を提供し、人と人・人と街をつなぐアートを活用したコミュニケーションを図った。

①アーティストや近隣の美術館との連携による野外でのワークショップを開催した。

②地域振興会との連携による、地元産の材料を使ったアートの提案を行った。また、地域ボランティアも活用した。



鑑賞ナビゲーターの実践研修

## B. 3 美術館連携事業の企画と実施

近隣の神戸ゆかりの美術館、神戸ファッション美術館との連携を深め、街の核として美術館を目指した。

- ① RIC アートカプセル 2010 プレイイベント「エコアート広場」を開催した。（8月22日）
- ② 六甲アイランド地域振興会と3美術館連携による六甲アイランド photo ツアーを実施した。

## オ. 美術と地域をつなぐ記録集の編集と作成

- ・地域、学校への発信として、美術と地域をつなぐ記録集の編集と作成（11月～2月）

発行部数            2,000 部

発行                2月28日

地域、学校への配布と紹介

RIC 地域振興会の企業、自治会、神戸市まちづくり支援課、神戸市・西宮市・芦屋市内の幼小中高等学校園、美術館、大学関係機関、近畿のアーティストや美術団体などに配布。また、次年度の校長会や教科の研究会で紹介。



「エコアート広場」の様子

## (2) 参加者の数

参加者人数            延べ 6,280 人

内 訳：スペシャルイベント	150 人
アートカプセルプレイイベント	400 人
先行ワークショップ	50 人
アートカプセル参加者	5,380 人
アーティストインスクール	200 人
鑑賞教材開発委員会	延べ 100 人



「RIC アートカプセル 2010」の様子

## (3) 事業により作成した印刷物等

- ・子どものための鑑賞ガイド「岸田劉生がみつめた子どもたち」5,000 部
- ・鑑賞学習教材のガイド「こいそさんカード」を活用した鑑賞プログラムの実践  
「鑑賞からゆたかな表現へ」2,000 部
- ・鑑賞学習教材補助教材「こいそさんカード」先生用 2,000 部
- ・RIC アートカプセル 2010 記録集 2,000 部
- ・ポスター：「R I Cアートカプセル 2010」B2 100 枚
- ・ポスター：「R I Cアートカプセル 2010」B3 1,000 枚
- ・チラシ：「R I Cアートカプセル 2010」25,000 枚

## (4) 実施事業に関する新聞記事等

### ○新聞記事

2010 年 10 月 17 日神戸新聞 朝刊	実施記事	添付有り
-------------------------	------	------

### ○テレビ、関連誌等

11月4日（水）～10日（木） ケーブルテレビ 「六甲アイランドアワー」での神戸大学発達科学部勅使河原君江ゼミのRIC アートカプセルのためのナビゲーター研修の様子を撮影した15分番組

#### 4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

##### 事業の成果

###### ○学校・子どもをつなぐ美術館の具現化

- ・小磯作品ならびに神戸ゆかり作品を美術館だけでなく学校の授業で活用するための実践事例集と「こいそさんカード」先生用の作成により、より多くの先生方が鑑賞教育を具体的にイメージし、実践してもらえた。
- ・鑑賞教材開発委員と継続して連携することにより、鑑賞教育に対する意識が高まり、美術作品の良さをさまざまな視点で味わおうとする教員が育成された。これは、各学校での鑑賞授業に反映し、児童生徒の美術館への関心の高まりにつながった。

##### （参加者の意見）

- ・鑑賞教材「こいそさんカード」先生用は掲示用としてたいへん活用しやすく、授業の中で児童が共通の話題で話し合う時にわかりやすい。
- ・ナビゲーター研修で、作品の味わい方を教師自身が楽しむことを知り、鑑賞教育の醍醐味を感じた。ぜひ子どもたちへの鑑賞学習をしたいと強く思う。できれば、美術館へも連れて行きたい。

###### ○地域をつなぐ美術館の具現化

- ・神戸ゆかりのアーティストによるアートワークショップを地域に発信することや地域ならではの材料で制作することで、地域に根ざした美術館として年齢を問わず周知されるようになった。
- ・美術を身近に感じ、積極的に美術に親しむ姿がたくさん見られた。

##### （参加者の意見）

- ・発見と出会い。こういうアートイベントを毎年行って地域に根づいていくことの意義をすごく感じた。
- ・高尚なものばかりでなく、身近なところにアートの楽しさを感じられるイベントで、苦手意識のある子どもや家では特にアートへのきっかけづくりにもなっていると思う。
- ・スタートすると自然と人が集ってきました。「私の描いたのはどれ？」と嬉しそうにやってくる子どもたちのうしろには、やっぱり嬉しそうな家族の顔があり、会場で出会った人同士も、自然と言葉を交わしていました。人が「つながる」ということは近くで見えてあったかい気分になりました。
- ・自分が親元から離れて何年も経ち、忘れかけていた、またどこかで恋しがっている“家族の風景”に「RICアートカプセル」では出会えることができます。それが街中で見かける親子達とは少し違い、一緒になってもものづくりに励んでいる姿であったり、楽しんでいる姿であったりするので、参加されている作家さん達も色々な家族への思いや自身の幼少の頃を思い出されるのではないのでしょうか。地域のイベントというのは、家族の大切なコミュニケーションの場でもあるのだと「RICアートカプセル」では感じられ、また地域を通して人と繋がっていける素敵さがあります。それが子供達には無意識であったとしても、大切なことではないのでしょうか。

##### 今後の課題

- 学校教育と相互理解を深め、今まで美術館教育に関心のない学校や教員が美術館に対して求めていることを調査するとともに、近隣の美術館との連携をさらに深めることで、利用者のニーズにあった普及活動を展開する必要がある。
- 地域とつながる美術館を目指し、積極的に美術を発信する事業を今後も継続していくことが大切になる。そのために、地元アーティストや地域ボランティアの育成が必要である。
- より多くの方に神戸の美術を継承し、地域の美術館として親しんでいただくために、教育普及事業対象の年齢を広げ、その集団や個人に適した鑑賞プログラムを提供することが必要である。また、その広報活動がたいへん重要だと考える。